

a 学校教育目標	夢や希望を持ち、心豊かな生きる力を身に付けた子ども の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得て、前進する三原一の学校。 「三原小で学んでよかった」といえる学校
----------	----------------------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価				改善方策	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策等	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					適正	不明	不適正		
確かな学力の育成	言語活動の充実と授業改善による学力向上	基礎・基本の徹底	三原小授業モデル(アクティブ・ラーニングによる授業改善)の活用	国語科・算数科の単元テスト平均70%以上の児童80%以上	平均70%以上の児童80%以上	90.6%		113.3%	A	単元テストの目標値に対して、国語科では13/14学級、算数科では10/14学級が達成している。特に算数科では、学習内容が難しくなる第4、5学年が未達成である。児童のつまづきをどのようにフォローするか、学年を越えた検討が必要である。学力調査の通過率については、調査未実施のため評価できない。専科と連携した学力向上強化週間は、例年通り4年生5年生を中心に実施する予定。	桜山タイムや学力朝会で取り組みばよい内容について検討する校内研修を行い、児童の学力向上を支える支援体制を構築していく。	○			・字を丁寧に書く、自分の考えや友達の考えをまとめて書くなどノートの使い方が上手な児童が増えている。 ・コロナ渦の中、計画的に授業を進めている様子が伺えた。
			専科と連携した学力向上強化週間の実施 研修の充実(ICT機器の活用も含む)	学力調査の通過率 平均通過率を各教科、全国平均+5P、各学年通過率40%未満を5人以下	通過率全国平均+5P 各学年通過率40%未満を5人以下										
		家庭学習の提出の徹底	家庭学習の提出調べを行い、7月12月2月に提出率を調査する。	97%	96.1%	99.1%	A	家庭学習の提出率は、僅かに目標値に到達していない。日々の忘れ物が少ないことや家庭学習ができない児童の固定化が要因として考えられる。	○						
		学習規律の徹底	授業始と授業終スタイルの統一化、話型の指導の徹底	振り返りが言える児童の割合	90%	92.7%	103.0%	A	振り返りが言える児童の割合は、目標値を達成している。日々の授業において、学び方を価値づけたり、振り返りの視点を示したりしていることが要因として考えられる。	○					
豊かな心の育成	生活指導項目の徹底と体験活動の充実による豊かな心の育成	自己肯定感の向上	生活指導重点目標5項目の徹底	あいさつ、時間厳守、ピカピカ無言掃除、右側歩行、靴揃えの徹底	児童による振り返りで5項目の得点平均が2点以上になる児童の割合 委員会による強化週間、調査の評価(年間3回、学期末1週間実施)	90%	92.1%	102.3%	A	5項目の得点平均が2点以上になる児童の割合は概ね達成している。しかし、平均として達成しているが、5項目全てで達成している児童は85.7%である。また、教師の見取りとして、特にあいさつや右側歩行など全校で十分に達成しているとはまだ言えない状況にある項目もある。	全校で取り組むべき重点項目を教員で周知し、児童会を中心に委員会活動等で全校児童に知らせていく。児童会掲示板等で、児童の目指す姿を提案したり、よい姿を知らせていく。	○			・「自分についての考えようアンケート」をしっかり活用や検討していることが良い。 ・マスク着用のため挨拶の声が少し小さくなったように感じる。引き続き「挨拶運動」の取組に期待する。
			キャリア教育の充実	生活向上アンケートの実施(年間3回) 「自分は誰かの役に立っている」と肯定的に回答する児童の割合	90%	77.8%	86.4%	B	「誰かの役に立っている」と肯定的に回答している児童の割合は目標値を達成していない。係活動や委員会活動など、自分の役割を果たすことが誰かの役に立っているという実感がもてていないことや、個によって仕事ができていることが要因として考えられる。	○					
			友達との関わりの強化	生活向上アンケートの実施(年間3回) 「友達に認められている」と肯定的に回答する児童の割合	90%	88.7%	98.6%	B	「友達に認められている」と肯定的に回答している児童の割合は目標値達成までと僅かであった。個々の良さを学級や学年の中で発揮する機会の少なさや、良さを伝える手段を児童自身が知らないことが要因として考えられる。	○					
健やかな体	健康教育と教育活動の工夫による運動能力・体力の育成	体力の向上	全項目の中から課題となる項目(「20mシャトルラン」)の改善運動を全校で実施する。	課題項目の解消	100%	-	-	-	-	コロナ禍の状況で、体力テストを実施できなかったため、課題項目の直接的な解消はできていない。そのため、体力の向上につながる活動を、新たに計画・実施する必要がある。	昨年まで体づくり朝会等で、筋力や持久力の向上を目的とした取組を今年度は実施できていない。10月以降、3密を回避できるように少ない人数、広い空間での体づくり朝会を計画し、引き続き児童の体力の向上を図っていく。	○			・児童の実態を把握し、その結果をもとに家庭との連携を図りながら取組を進めようとしていることが良い。 ・コロナの影響もあるが、外で遊ぶ機会が減っているため、休憩時間や体育の時間にしっかりと体を動かすきっかけを作してほしい。
			食習慣の定着	栄養教諭と担任とのTT授業、PTA事業の実施	健康週間による調査で、「金メダルの数(バランスの取れた朝食の摂取をしている児童の人数)」を85%以上にする。	90%	66.0%	73.3%	B	健康習慣による調査結果で、「朝食を毎日食べている」の項目は92%、「金メダルの朝ごはんである」の項目は66%が肯定的回答であった。栄養バランスが整った朝食を食べていない児童が30%以上いることが分かった。		○			
			家庭での生活習慣の定着	年1回の生活習慣実態調査の実施、保護者啓発活動の実施	健康週間の調査で、全体の平均が4点以上である児童を90%以上にする。	75%	65.0%	86.7%	B	昨年度の結果と比較すると、「手洗い」以外の全項目で今年度の結果が下回っていた。特に、TVやスマートフォンの使用時間に関する項目が、著しく低下しており、コロナ禍における自粛の中で、外出の時間が減ったことが原因であると考えられる。		○			
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくり	地域を繋ぐ教育活動の工夫	地域の行事への参加 ゲストティーチャーの奨励 幼・保・小・中の連携	各学年、年に2回以上	100%	66.6%	66.6%	C	6学年中4学年が実施している。コロナ禍の状況で、実現できにくい活動がある中、生活科・総合的な学習の時間を中心に、児童主体で、今だからできることを考えて新しい取り組みに挑戦している。年2回を達成していない学年は、今後実施する予定である。(全校 三原市あかりプロジェクト参加等)	今後も、学年で早めに相談をして、積極的に講師の奨励を実施したり、地域行事へ参加したりしていく。	○			・地域のイベントに参加するなど、今できることを子供たちに発見させ、積極的に取り組んでいる様子が伺えた。 ・先生方の勤務時間については今後の課題である。評価項目について見直し、改善を図るとよい。	
			定期的な情報公開	学年便りの作成 HPの更新	月に1回以上	100%	100.0%	100.0%	A		月に1回以上、全学年が、児童の様子や連絡事項を保護者に知らせることができている。また、HPも計画的に更新している。	○			
			働き方改革(次世代の働き方への体制づくり)	計画的な時間外勤務の短縮	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	50.0%	50.0%	D		国や県・三原市の働き方改革取組方針に基づいて、職員の意識改革に組織的に取り組んだが、全職員が45時間以下を達成できたのは6か月中3か月であった。日々の互いの声掛けや定時退校日の確実な実施と会議や業務の精選を行う必要がある。	○			
			時間外勤務1年間360h以下実施	100%	-	-	-	-	毎月の時間外勤務時間と年間の勤務時間外の時間数を意識することができていない。	○					

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ハ:わからない。
ロ:自己評価は適正でない。